

社会教育と地域社会

—社会教育とは何か、その役割の再検討—

牧野 篤

(東京大学大学院教育学研究科)

社会構造の変化にともなう「社会教育」の概念・人間観・役割の変遷から

1. 社会教育概念の再検討

社会教育：教育から「学び」の組織化へ

⇒ **社会の基盤としての人々の関係を共感的・協調的關係へと「耕すこと」**
= あらゆる社会活動や行政施策などの基盤としての「学び」の実践

⇒ **社会教育には（特定の）「目的」はない（といえるのではないか）**
= 社会教育は一般行政に先んじている（優越している）

⇒ 事後性（対応）から事前性（想像・創造）へ

⇒ **人生100年時代に入り、学校教育が人生の初期20年ほどしかかかわれず、
人生100年を学校教育で身につけたことのみでは生きられない時代に、
改めて次世代の育成と社会教育・生涯学習のかかわりが「学び」として問い返される**
= 社会の持続可能性にかかわる

⇒ 人々の存在も、「帰属」から「つながり」へと変化

2. コミュニティと「学び」が政策的焦点化

コミュニティと「学び」が焦点に

↳日本社会は明治以降、国の枠組みが動揺すると

コミュニティが政策的ターゲットになる

総務省：地域運営組織・地域生活総合支援サービス

厚生労働省：地域包括ケアシステム・地域共生社会づくり

国土交通省：国土強靱化・防災訓練・ふるさと集落生活圏

まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点

経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命、STEAMライブラリー

農林水産省：農村地域づくり事業体（農村RMO）

文部科学省：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、GIGAスクール

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

政府：人生100年時代構想会議

新しい資本主義実現会議

主要テーマ：学び直し・リカレント教育

3. 戦後改革期社会教育（公民館）の役割

牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科)

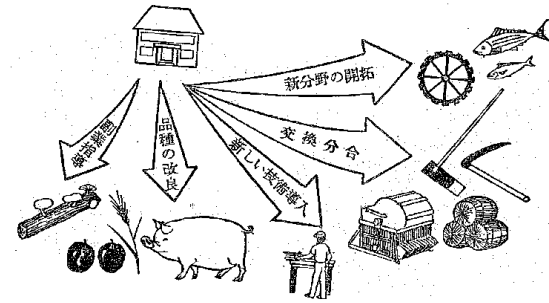
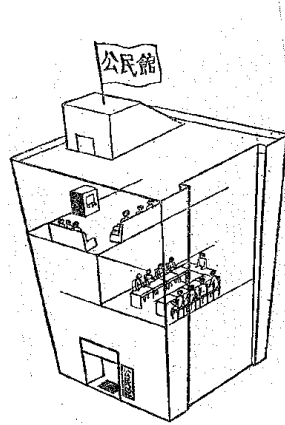
地域社会（ふるさと）づくりの人的基盤をつくる拠点としての公民館

民主的社会教育機関です

村の茶の間です

親睦交友を深める施設です

産業振興の原動力です

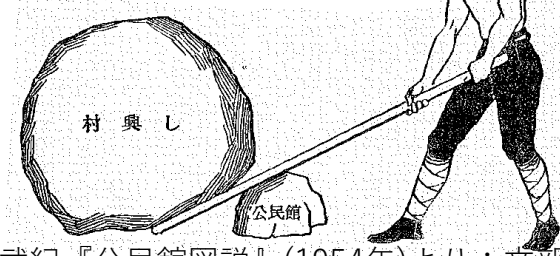
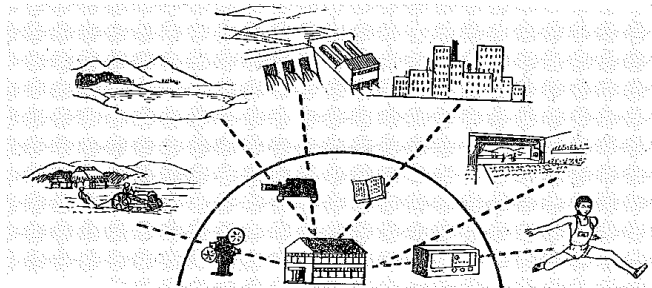


民主主義の訓練場です



郷土振興の機関です

文化交流の場です



小和田武紀『公民館図説』（1954年）より：文部科学省提供資料

牧野 篤（東京大学大学院教育学研究科）



村の茶の間です

親睦交友を深める施設です

次世代の育成
←**恩送り**

社会教育の固有性はどこにあるのか

私たちが**社会として生き延びること**

次世代育成⇐恩送り

相互承認・自己肯定

⇨一般行政に優位している

村の茶の間です

親睦交友を深める施設です



地域コミュニティの最先端

最先端を住民が支え、担う

ワクワクする生活が生まれる

ワクワクがさらに次の生活をつくり出す

次世代を育成する

社会教育に（特定の）「目的」はない（といってもよいのでは？）

社会教育がしっかりしていると、社会に（それぞれの）「目的」が生まれる

一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

敢えていえば、

社会教育は「社会」を永續させるための人々の関係を「耕す」営み

⇨これを「学び」と呼びたい

**だから、社会教育は一般行政に優越する
でないと、社会は底が抜けてしまう
永続性を失う**

4. 「社会教育」概念のとらえ方 (「歴史的範疇」としての社会教育)

社会教育

明治期：「通俗教育」

1921年の文部省官制により「社会教育」

1872年 「学制」 (近代学校制度)

1872年以降 博物館・書籍館(図書館)の設置

1885年以降 通俗教育

1921年以降 社会教育

⇐ 「社会」の出現：産業資本家と労働者大衆・労働市場の拡大

近代産業国家建設のための国民統合・市場形成機能

就学督励

未就学者への教育保障

⇒ 学校が取りこぼした人々の教育による統合

救貧政策・知識普及(国民統合)
市場社会への民衆の組み込み(経済発展)

⇒自由と平等のトレードオフを「分配」の拡大で止揚する
帰属と同一化による平等な「国民」の形成

教化なのか？

政策・制度・施策が社会心理的なものであること
実際の施策に福祉的事業・社会需要が含まれていること

⇒一概に強権的な教化とはいいいにくい

⇒社会教育の実践：セツルメントなど地域社会が主要な舞台
学校教育の画一・均質・一律・抽象ではなく
個別・具体的な対応＝特定の内容を持たないことが基本

「社会教育」概念のとらえ方

宮原誠一：「歴史的範疇としての社会教育」
原初形態としての社会教育ではなく
「歴史的範疇」としての社会教育

⇒近代産業国家建設における学校教育との対比による制度

⇐近代産業国家 = 国民教育制度としての学校教育制度を持つ国家
民衆の意識が「学校」を中心にして国家へと統合される

⇒社会教育：常に学校教育をメインストリームにして、それとの対比で定義された
学校教育の「補足」「代位」「移行」「拡張」「その他」など

戦後、改めてコミュニティ形成とのかかわりで社会教育がとらえられた

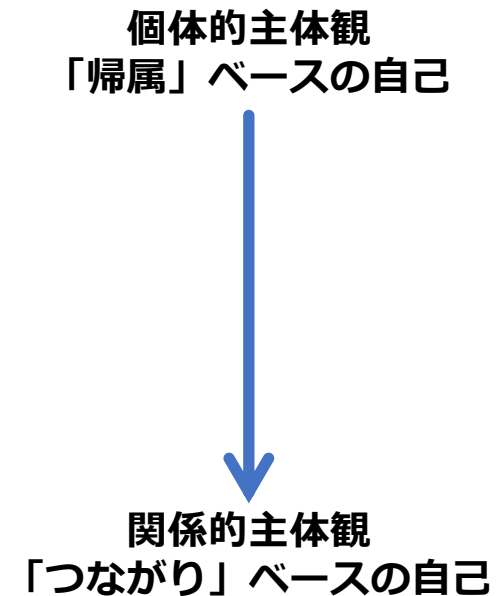
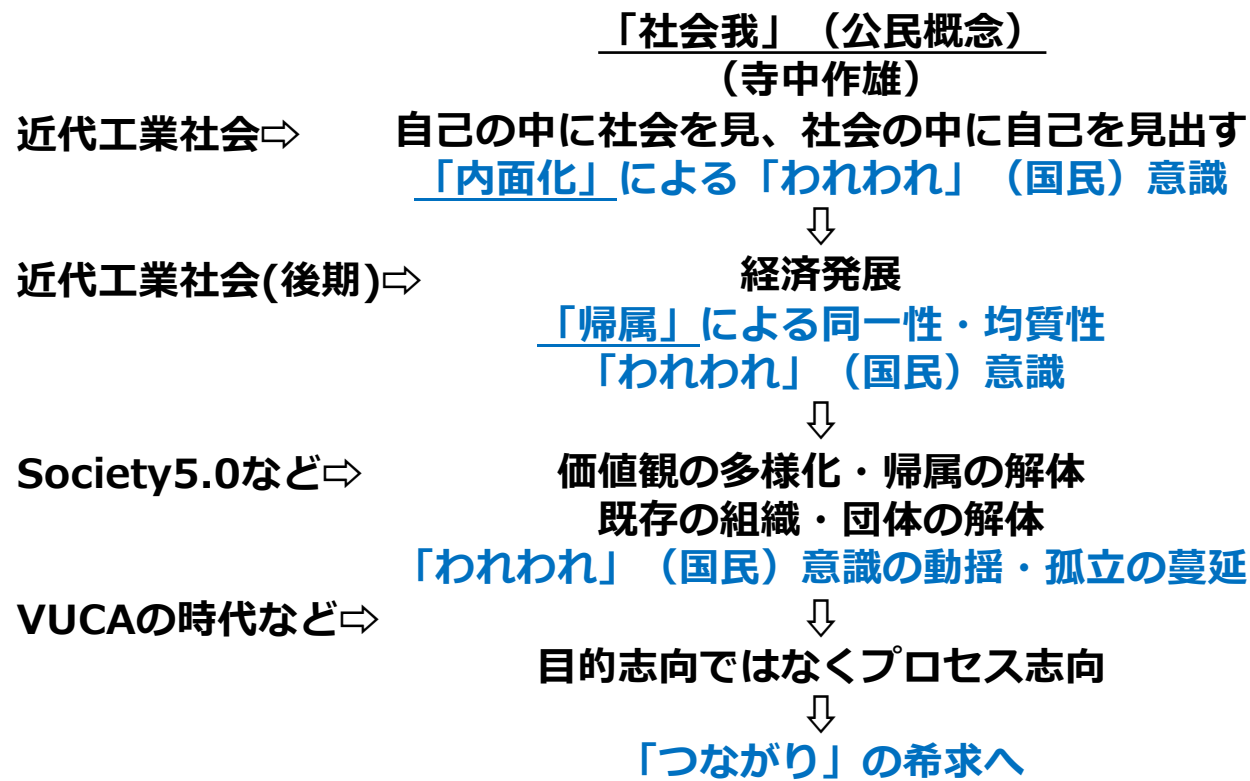
その後、再び、学校教育との対比でとらえられる（「その他」の領域の拡大）

学校経由の人生[家計・経済]設計（家庭-学校[学歴]-企業[社会]）の一般化
メインストリーム（学校）以外の学び・実践・活動（余暇・文化活動・住民運動など）



今日、改めて、地域コミュニティと住民による自治・社会参加が問われる
社会教育（公民館）が重視される

5. 人の在り方（人間観）からとらえる



外的価値の「所有」「内面化」による統合・同一化
から

外的価値への「帰属」「依存」による統合・同一化
へ
||

人を人口（集団）として扱う社会
均質・画一と自由への平等
競争による序列化・代替可能
「一」なる「われわれ」
同じ「われわれ」国民という意識



近代産業社会（国民国家）・規模の経済

社会の枠組みの動揺

⇐Society5.0など

同一化の不全

「帰属」による「われわれ」意識×「内面化」による「われわれ」意識
の解体 = 大きな「帰属」の解体



既存の組織・団体（企業・町内会など）へのちいさな「帰属」の解体

⇨自由と平等のトレードオフの前景化

⇨近代国民国家の枠組みの動揺

強い個人の前景化⇨生涯学習

均質・平等な
われわれ「同胞」
= 「一」なるもの
⇒国民

対他性なき対自性
: 依存・同一化

大文字の「他者」

国家・資本・父
「一」なるもの

「一」なるわれわれが
規範言語である国語を用いて
「一」なる「他者」(超越者)に
依存する

↓
規範化された国民



「一」なるわれわれの解体

帰属の機能不全
(既存の組織・団体の解体)

再統合へ?

多様化・個別化

市場の取りいぼし

牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科)

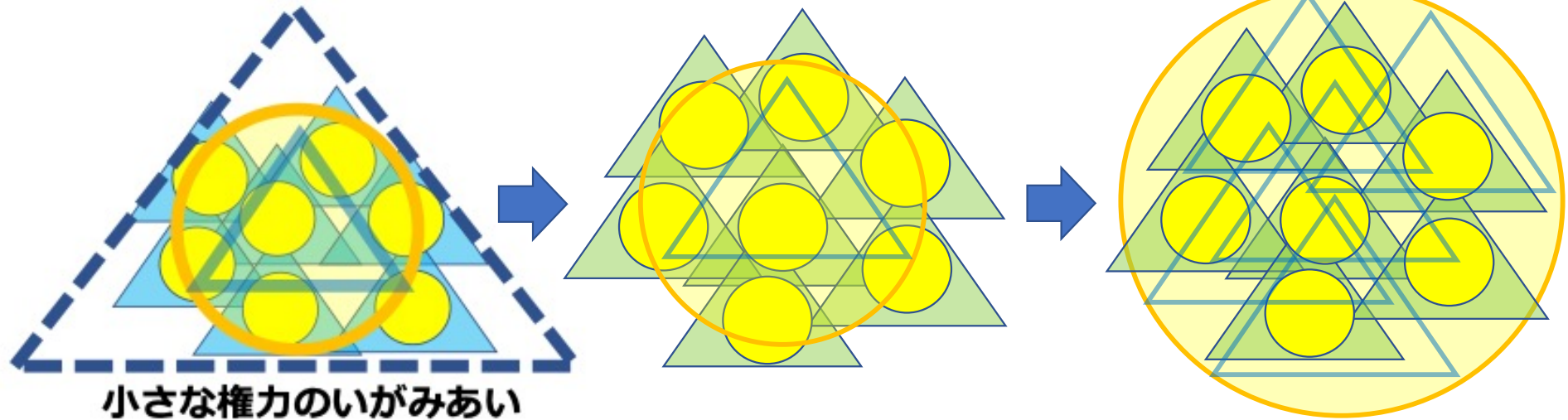
個人の在り方

「帰属」から「つながり」「かかわり」へ
人々相互の「かかわり」による相互承認関係ベースの存在へ

または、「強い個人」から「緩やかなつながり」へ
ここで改めて、生涯学習（個人重視）から社会教育（関係重視）へ

「帰属」ベース
の「自己」

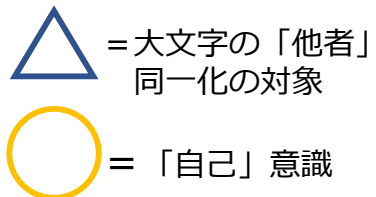
「つながり」ベース
の「自己」



小さな権力のいがみあい

それぞれの帰属を
関係へと組み換えて
関係による「自己」へと展開

関係的「自己」の拡大と協調型幸福感の拡充
相互承認関係による「自己」の形成



⇒草の根のコミュニティ
における関係の形成と豊穡化

⇒コミュニティにおける
「かかわり」の「場」の創出
⇐社会教育

個人の在り方：
「帰属」から「つながり」による「自己」へ

コミュニティ・ベースの相互承認・受容・配慮と想像

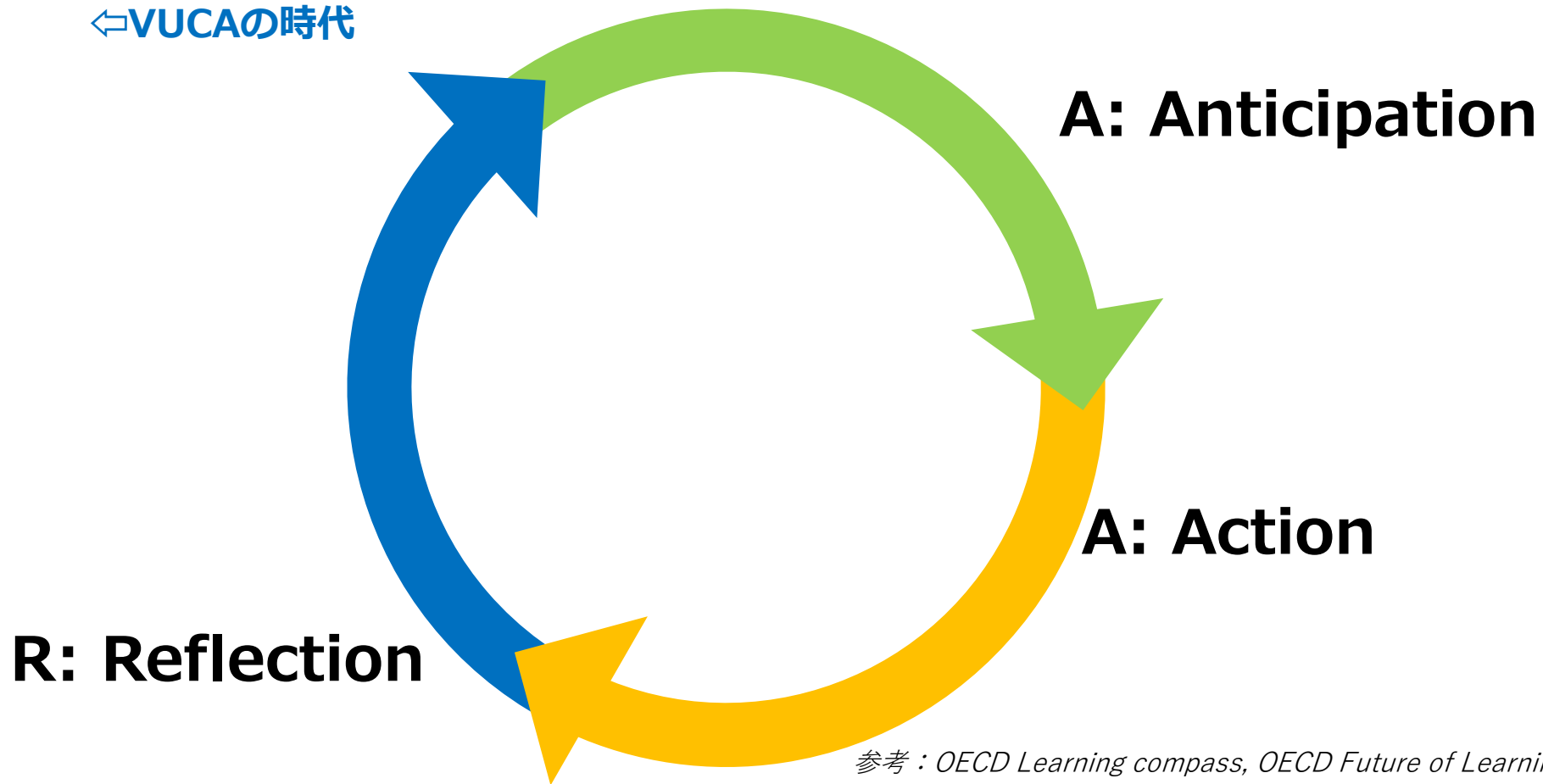
⇒コミュニティにおける住民自治

⇐住民自治の基盤としての「自己」形成

⇐「自己」形成支援としての社会教育

6. 目的志向からプロセス志向へ
（「帰属」を「つながり」につくりかえるために）

「帰属」から「つながり」へ
⇒ 目的志向からプロセス志向へ
⇐ VUCAの時代



参考 : OECD Learning compass, OECD Future of Learning and Skills

<https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/>

牧野min篤(東京大学大学院教育学研究科) min

Anticipation : 予期・予測

⇒何か「楽しいこと・嬉しいこと」
を考えてウキウキする

Action : 行動・実践

Reflection : 振り返り

⇒評価しない
振り返って、さらにAnticipation
どんどん多様になる

「楽しさ」「愉しさ」に駆動される
⇒「よきこと」の社会実装に駆動される
目的達成志向型⇒プロセス展開志向型

R: Reflection

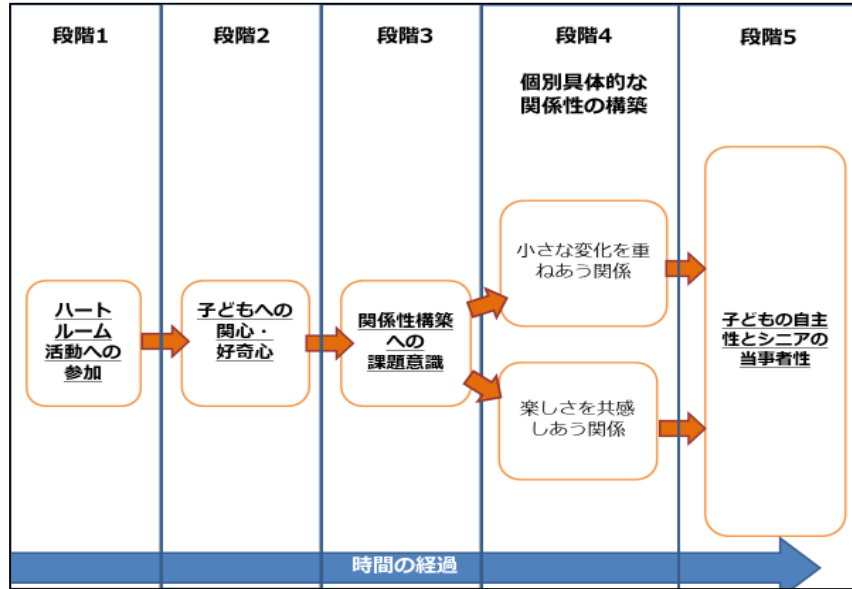
A: Anticipation

相互の承認関係が「かかわり」を生み、
「かかわり」が「つながり」を生んで、
人々を互いに当事者にする

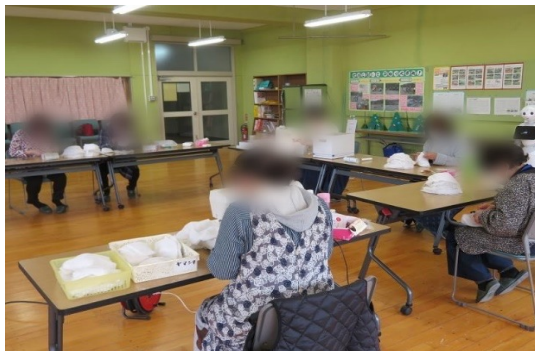
A: Action

7. 「よきこと」の社会実装による「関係」の耕し

高齢者と子ども双方に信頼感にもとづく変化が



住民によるマスクづくり



牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科)

子どもたちによる 高齢者へのマスクづくりと寄贈



岐阜市コミュニティスクール形成事業



空き家の活用事業
(世田谷区「岡さんのいえ」)

牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科)

「学び」 = 「よきこと」に気づき、実践する

⇒ 社会に「共通善」を実践する営み

他者への想像力と配慮・相互承認関係にもとづく価値

社会教育 = 「学び」を「公共財」として実装する営み
(= 社会的共通資本)

「悲しみを分かち合う」 (神野直彦) 実践

= 他者を慮る

⇒ 社会に信頼感を醸成する・居場所ができる

社会教育の役割

人々が自分たちで社会をつくるための人間関係を「耕しておく」こと

⇐AAR循環

決断の手前で、時間をかけて地域社会で
豊かで相互的な人間関係の場を築いておくこと

地味で地道な対話の技法を用いて「関係」をつくっておくこと

サービスの受け手ではなく、社会の担い手になる

For Allの基盤の上に、By Allで社会を担い、つなげる

このための基盤（「関係」づくり）としての社会教育

地域社会で「つながり」を耕しておくこと

対策・対応（事後・義務・責任）から生成・関係（事前・楽しさ・関心）へ
そのための専門職（「学び」のオーガナイザ）としての「社会教育士」の拡充

ありがとうございました